「これは水さ」：ジョブズのスタンフォード大学卒業式スピーチを超えると言われる デビッド・ウォレス氏のスピーチ

２匹の若い魚がスイスイと泳いでいると、向かって泳いできた年長の魚がすれ違いざまに言いました「やあ青年達、今日の水はどうだい？」と。

そして、若い魚たちは目を合わせ言いました「水って何だ？」。

今は亡き、デビッド・ウォレス氏が２００５年にケニオン大学で行った卒業式のスピーチは同じ年にスタンフォード大学でスティーブ・ジョブズ氏が行ったスピーチよりも知名度は低いですが、その内容は「好きな事をやれ」と言ったジョブズの浅はかなメッセージよりも遥かに意味のあるスピーチだと言う声が多くあります。

そんなスピーチを抜粋し、私なりに少しアレンジした内容をこの動画ではお届けします。

就職して初めて分かる、社会人の姿。必死に勉強して手に入れた学歴で入社出来た会社。しかし、それは新たな競争の始まり。毎日のように、８時間以上働く日々。

「家に帰って、お風呂に入ってご飯を食べて、少しダラダラして、明日も早いからと早めに寝よう」ととある日の帰りの電車で考えていたら、「夕飯の食材が無い」と気が付いた。

家の近くのスーパーに立ち寄るも、食材を探したり選ぶのに時間が掛かって、レジに向かうと、同じような仕事終わりのサラリーマンや遅く買付けに出た主婦、他業種の人達で長い列が出来ているわけです。

「もっとレジ増やせよ！レジの奴、遅いなマジで！」と思ってから、周りを見渡して「こいつら、邪魔だな、マジで」と思って、スマホに手を伸ばして、ソーシャルメディアや友人知人に自分の最悪な状況の報告をする。

まるで、世界があなたを中心に回っていて、あなたの前に立ちはだかる物は全て、あなたの邪魔をしようとしていると思い込んでいるかのように。

実に傲慢で動物的。

人間が他の動物とは違うのは、本能に逆らう事が出来ると言う事です。人間も他の動物と同じように、自分の生存率を上げようと、「自分中心に物事を考えろ」とDNAに刻まれていますが、それでも人が他の動物と違うのは、自分の意思でその初期設定を変える事が出来ると言う事です。

ですから、動物的本能のまま、自己中心的な思考を持つのか？それとも、人間的に思いやりを持って生きるのか？その選択肢は常にあなたに与えられているわけです。

そして、その選択肢こそが「自由」と言う物なのです。

DNA、生物としての初期設定に対して、他の生物は初期設定を変える選択肢は与えられていませんが、人間は設定と言うボタンをクリックして、その初期設定を自己中から他人に対しての思いやりを持つと言う選択肢に変える事が出来るのです。

ウォレス氏が伝えたかった事、それは少しでも傲慢で無くなる事、思いやりを持つ事、そしてどんな状況でも、最終的な選択肢はあなたにあると言う事。

そうすれば、横柄さが無くなって、小さな事でイライラしてストレスが溜まる事は無くなるかもしれません。相手の立場に立つ事で人間関係がより円滑になるかもしれません。エゴが小さくなり、自分の名声よりも組織としての目標をより優先するようになるかもしれません。過剰な自信が弱まり、己を高めようと経験する事や学問に励むようになるかもしれません。連帯意識を持つようになって、協調性が増すかもしれません。

そして何よりも、誰かのためになると言う事はその人だけでは無くて、あなた自身もハッピーな気分になるらしいです。

周りの世界、現実にもう少し目を向ければ、「これが水だったのか」と気が付く時が来るかもしれません。